

栃木市地域未来ビジョン



令和5年3月

栃 木 市
栃木中央地域会議
栃木東部地域会議
栃木西部地域会議
大平地域会議
藤岡地域会議
都賀地域会議
西方地域会議
岩舟地域会議

I 地域未来ビジョンの概要

1. 地域未来ビジョン策定の背景

○栃木市の地域自治制度について	2
○栃木市地域づくり推進条例の概要	2
○栃木市の地域自治制度の課題と地域未来ビジョン策定の経緯	5

2. 地域未来ビジョンの趣旨

○地域未来ビジョン策定の経過	6
○地域未来ビジョンの考え方	7
○地域未来ビジョンの位置づけ	8

II 各地域未来ビジョン

○栃木中央地域未来ビジョン	10
○栃木東部地域未来ビジョン	12
○栃木西部地域未来ビジョン	14
○大平地域未来ビジョン	16
○藤岡地域未来ビジョン	18
○都賀地域未来ビジョン	20
○西方地域未来ビジョン	22
○岩舟地域未来ビジョン	24

III まとめ

1. これからの地域まちづくり

○地域の未来の姿を実現するための地域会議、認定まちづくり実働組織、市の役割	28
○地域の枠を超えた連携	29

2. 参考資料

○栃木市総合計画(第2期)アンケート結果	30
○子育て世代まちづくり意見交換会アンケート結果	33
○多世代まちづくり意見交換会アンケート結果	34
○「まちづくり」意見交換会の報告	35

I 地域未来ビジョンの概要

1. 地域未来ビジョン策定の背景

- 栃木市の地域自治制度について
- 栃木市地域づくり推進条例の概要
- 栃木市の地域自治制度の課題と地域未来ビジョン策定の経緯

2. 地域未来ビジョンの趣旨

- 地域未来ビジョン策定の経過
- 地域未来ビジョンの考え方
- 地域未来ビジョンの位置づけ



1. 地域未来ビジョン策定の背景



○栃木市の地域自治制度について

栃木市の地域自治制度は、「この地域に住んでいて良かった」、「これからもこの地域に住み続けたい」と思えるよう、住みやすく活力のある地域をつくるため、地域住民と市が交流・連携し、それぞれがすべきことを考え、各地域が抱える様々な課題を協働で解決していく仕組みです。

栃木市は、平成22年から平成26年にかけて、段階的に1市5町が合併するという他市には例を見ない経緯があります。合併時の不安を解消するとともに、今までのまちづくりを継承し、地域住民の意見を反映していく仕組みとして、平成27年3月までの5年間は、旧5町の区域に合併特例法に基づいた地域自治区※1の導入と、住民代表組織としての地域協議会※2を設置し、地域の特色あるまちづくりの推進を図ってきました。

地域自治区の設置期限後の平成27年4月以降も、引き続き地域のまちづくりと市民協働のまちづくりを推進するために、市独自の地域自治制度を定める「栃木市地域づくり推進条例」を制定しました。

※1 合併特例法に基づき設置される自治・行政組織の一つ。栃木市では合併前の自治体の区域を一つの自治区とし、その区域内一定の予算と事務の権限を有し、各地域の特色あるまちづくりを行っていた。

※2 地域自治区の住民や学識経験者等により組織される住民代表組織。区域内の予算や事務について意見することができる。

○栃木市地域づくり推進条例の概要

栃木市地域づくり推進条例は、栃木市独自の地域自治制度について定め、身近な地域のまちづくりに関する取り組みを推進することで、住みやすく活力ある地域のまちづくりを実現することを目的としています。また、市はそれらの活動について、必要な支援を行うこととしています。

栃木市では、地域住民が自らまちづくりについて考え、取り組むことができるよう、市内を8つの地域に分けて、地域住民の代表組織である「地域会議」を設置しているほか、各地域で地域固有の課題の解決や地域の特色を活かした活動に自主的に取り組む団体を「認定まちづくり実働組織」として認定しています。

そして、「地域会議」と「認定まちづくり実働組織」が連携してまちづくりに取り組めるよう、各地域に「地域まちづくりセンター」を設置し、支援しています。

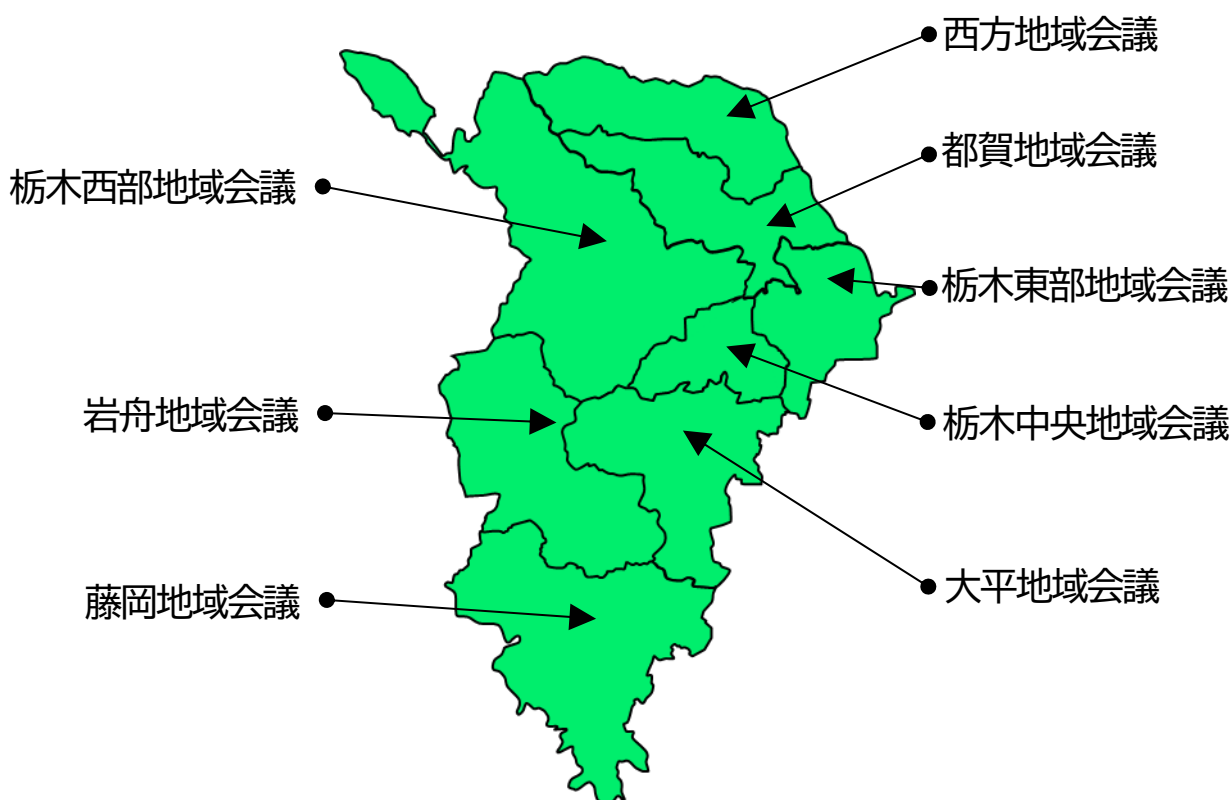
【地域会議】

地域会議は、地域住民により構成される市の諮問機関です。地域のまちづくりに関する意見を市政に反映することで、市民による身近な地域のまちづくりを推進することを目的に設置しています。

地域会議の主な役割は、市長から意見を求められた事項や地域会議がまちづくりに関して必要と認める事項について話し合い、地域の意見を市長に述べることです。また、地域の課題を地域で効率的に解決する仕組みとして、一定の枠内で予算の使い道を市長に提案することができる地域予算提案制度※があります。

※ 地域予算提案制度で提案できる事業は、特定の地域を対象とした事業に限定され、市全体を対象とした事業は提案できない。
また、地域ごとに提案できる事業の予算が決まっている。

《地域会議一覧》



【認定まちづくり実働組織】

認定まちづくり実働組織は、地域のまちづくりを推進するために、地域内の各種団体や地域住民で構成され、地域課題の解決や地域活性化のために自ら企画し、行動する団体です。地域会議と連携することで、より効果的にまちづくり活動に取り組むことが期待できるため、地域会議の意見を基に、市で認定しています。

認定まちづくり実働組織の活動は多岐に渡るため、市は活動の自主性を尊重するとともに、地域づくり応援補助金※交付などの支援をしています。

※ 市が認定まちづくり実働組織を支援する制度で、組織の設立準備段階や、設立初期の計画策定、定例の活動、企画した事業、それぞれに対して財政的補助を行う。

《認定まちづくり実働組織及び地域まちづくりセンターの一覧》

地域	認定まちづくり実働組織団体名	センター名称	担当
栃木中央地域	うずま協力隊	栃木中央地域まちづくりセンター	地域政策課栃木公民館係
栃木東部地域	国府地区まちづくり協議会	栃木東部地域まちづくりセンター	地域政策課国府公民館係
	大宮地区まちづくり協議会		地域政策課大宮公民館係
栃木西部地域	吹上地区まちづくり協議会	栃木西部地域まちづくりセンター	地域政策課吹上公民館係
	皆川地区街づくり協議会		地域政策課皆川公民館係
	寺尾まちづくり協議会		地域政策課寺尾公民館係
大平地域	大平わいわいテラス	大平地域まちづくりセンター	大平地域づくり推進課 地域づくり推進係
藤岡地域	ハートランドまちづくり隊	藤岡地域まちづくりセンター	藤岡地域づくり推進課 地域づくり推進係
都賀地域	まちづくりネットワーク『つが』	都賀地域まちづくりセンター	都賀地域づくり推進課 地域づくり推進係
西方地域	にしかたわくわく隊	西方地域まちづくりセンター	西方地域づくり推進課 地域づくり推進係
岩舟地域	小野寺ふれあい会	岩舟地域まちづくりセンター	岩舟地域づくり推進課 地域づくり推進係
	静和まちづくり協議会		
	すみよいまちづくりの会「いわふね」		
	小野寺南まちづくり協議会		

【地域まちづくりセンター】

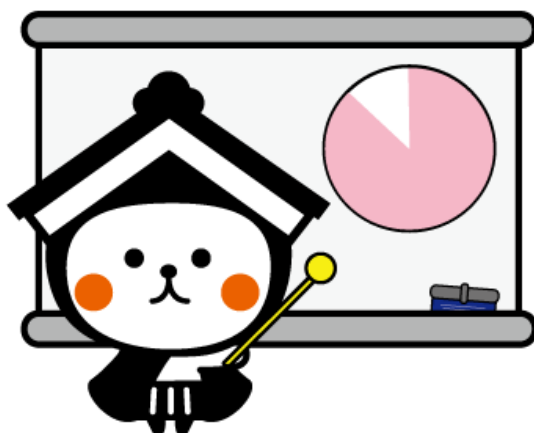
地域まちづくりセンターは、地域会議、認定まちづくり実働組織の活動を支援するため、各地域に設置しています。地域会議の事務局を担当し、地域について活発な意見交換ができるよう、会議の進行を補助するとともに、庁内各課との各種調整を行います。また、任意団体である認定まちづくり実働組織に対しては、事業の企画立案や実施に関して必要な支援をしています。

○栃木市の地域自治制度の課題と地域未来ビジョン策定の経緯

市内全域で地域会議やまちづくり実働組織が活動し、地域自治制度が始まってから8年が経過する今、地域のまちづくりにおける様々な課題が見えてきました。

その中でも、「各地域の魅力と課題の洗い出しができていない」、「地域会議と実働組織が連携するための共通認識(将来の姿)が持っていない」という2つの課題は、栃木市の地域自治を推進するうえで、大変重要な課題です。

そこで、それらの課題を解決し、更に栃木市の地域自治を推進していくために、各地域会議において「地域未来ビジョン」を策定することとしました。



2. 地域未来ビジョンの趣旨



○地域未来ビジョン策定の経過

地域未来ビジョン策定の過程においては、各地域会議委員だけではなく、同じ区域で活動する認定まちづくり実働組織の会員や地域まちづくりセンター職員をはじめとする市職員が、様々な視点で意見を交わし、共通認識を持てるよう、意見交換会を行いました。

また、第2次栃木市総合計画の策定に伴い実施した中学生対象のアンケート※1や、子育て世代まちづくり意見交換会や多世代まちづくり意見交換会の参加者を対象に実施したアンケート※1において、居住する地域に対する意見を伺いました。

その中では、少子高齢化や過疎化、コミュニティの希薄化などの一般的な課題や、観光や防災などの地域特有の課題、そして、脱炭素化※2や SDGs※3、DX※4などの取り組みについての課題まで、まちづくりにおける幅広い分野での意見が見受けられました。

これらの意見を踏まえ、各地域会議において、地域の魅力・課題の洗い出し、地域の将来の姿を検討し、地域の10年先の明るい未来を実現するためのまちづくりの指針となる、各地域未来ビジョンを取りまとめました。

※1 それぞれのアンケート結果は「Ⅲまとめ 2. 参考資料」として掲載。

※2 地球温暖化対策として、温室効果ガスである二酸化炭素の排出を抑制すること。

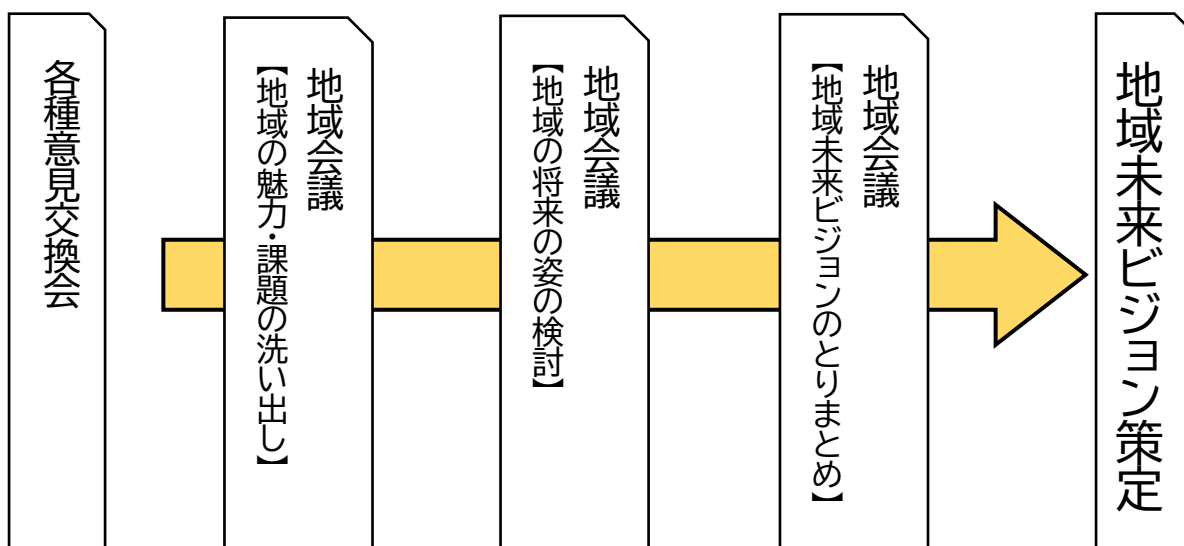
※3 2015年に国連総会で採択された、持続可能な開発をしていくための17の目標。(Sustainable Development Goalsの略)

※4 AIやIot等のデジタル技術を活用し、生活やビジネスを良い方向に変化させること。(Digital Transformationの略)

《策定までのスケジュール》

令和4年9月

令和5年3月



○地域未来ビジョンの考え方

前述のとおり、地域未来ビジョンは、まちづくりを進めるうえでの指針であるとともに、地域をより良くしたいという地域住民の「想い」でもあります。

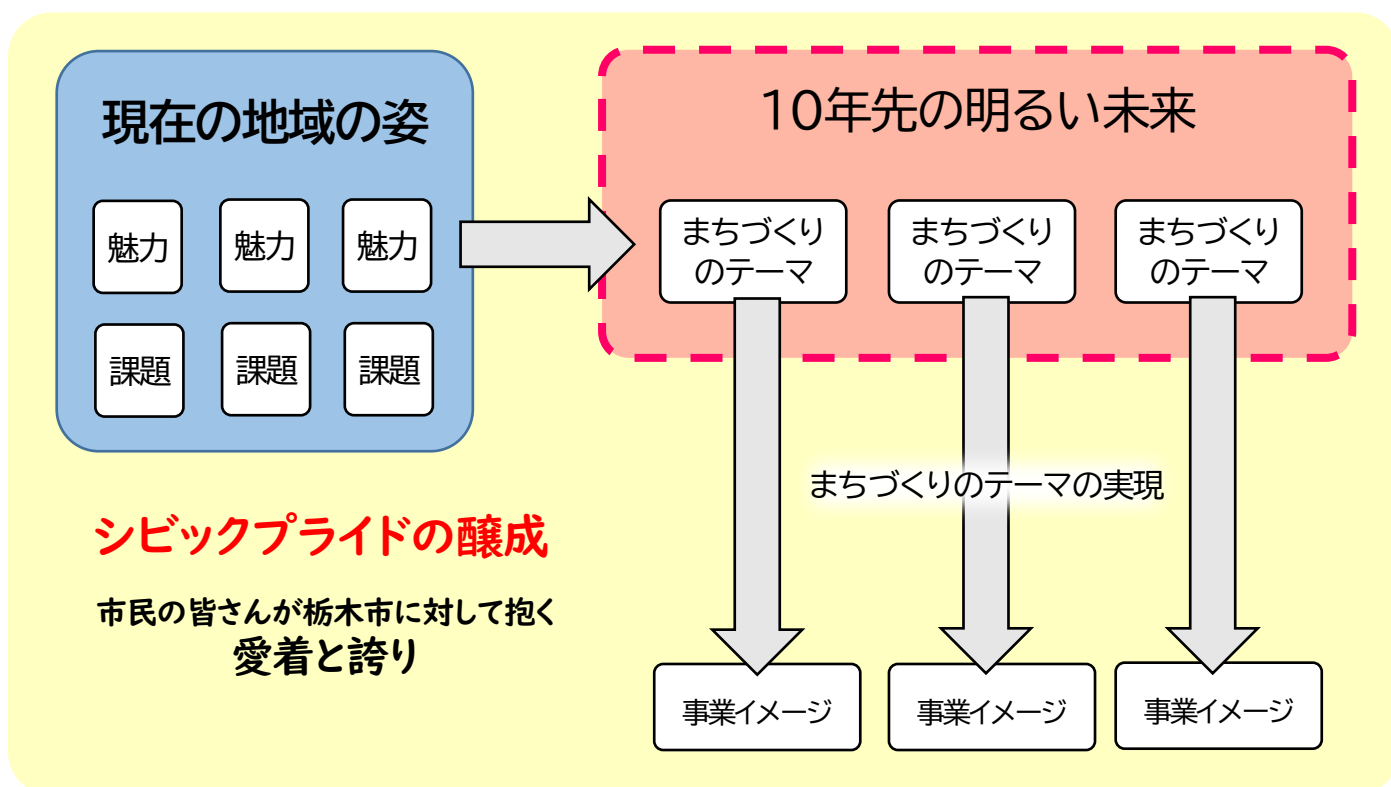
まず、地域未来ビジョンを検討するにあたり、各地域会議において地域の魅力や課題について話し合い、地域の現状を把握しました。

次に、地域の魅力に磨きをかけ、課題を解決した姿を3つのまちづくりのテーマで表し、地域の「10年先の明るい未来」としました。

そして、3つのまちづくりのテーマを実現するための事業のイメージを検討しました。それらに基づいた具体的な事業を実施することにより、「10年先の明るい未来」を実現していくことが、地域未来ビジョンの考え方となっています。

また、地域未来ビジョンがあることによって、地域住民が地域の魅力を再発見し、地域に愛着と誇りを持つ「シビックプライド」の醸成に繋がることも、地域未来ビジョンの目的の一つです。

《地域未来ビジョンの考え方のイメージ》



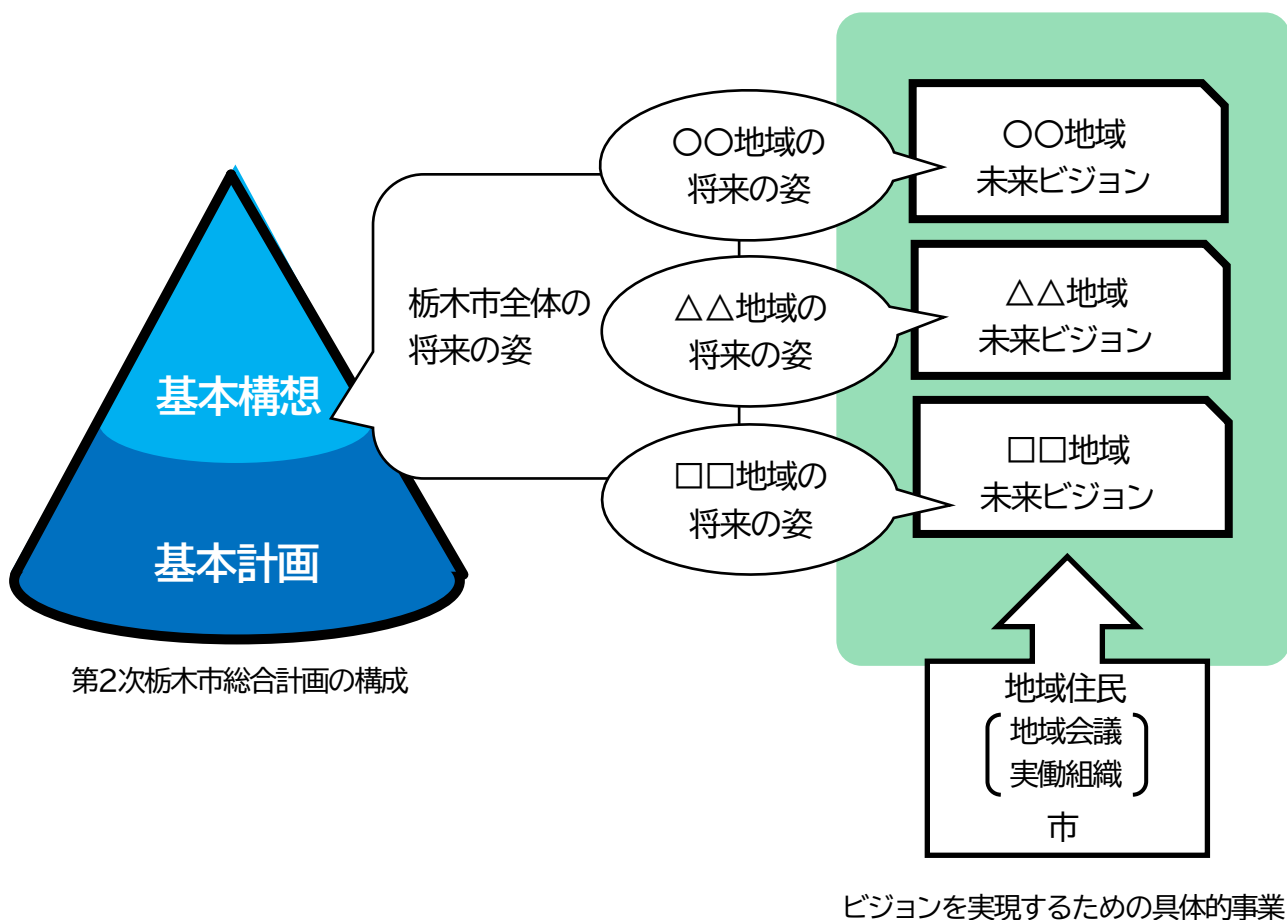
○地域未来ビジョンの位置づけ

令和5年から令和14年を計画期間とする第2次栃木市総合計画は、自然災害への対策等、市が抱える様々な課題や、社会の変化により複雑・多様化する市民ニーズを把握し、市民との協働によるまちづくりを推進していくとともに、持続可能なまちづくりを行うための指針であり、栃木市における最上位の計画です。そのため、地域未来ビジョンを含む関連する個別計画は、総合計画と整合を図ることとなっています。

総合計画は、10年間を計画期間とする「基本構想」、前期5年間、後期5年間を計画期間とする「基本計画」で構成しています。基本構想においては、「栃木市全体の将来の姿」を示しており、基本計画においては、その姿の実現に向けた各種施策を示しています。

地域未来ビジョンも、総合計画の基本構想と同様に10年先を見据えて策定しました。その中で、それぞれの地域の特色を生かした、よりきめ細やかな「地域の将来の姿」を示し、地域会議委員や認定まちづくり実働組織の会員を始めとする地域住民が、それぞれの立場と役割に基づき、まちづくりに取り組むことを目指します。

《地域未来ビジョンの位置づけのイメージ》



II 各地域未来ビジョン

○栃木中央地域未来ビジョン

○栃木東部地域未来ビジョン

○栃木西部地域未来ビジョン

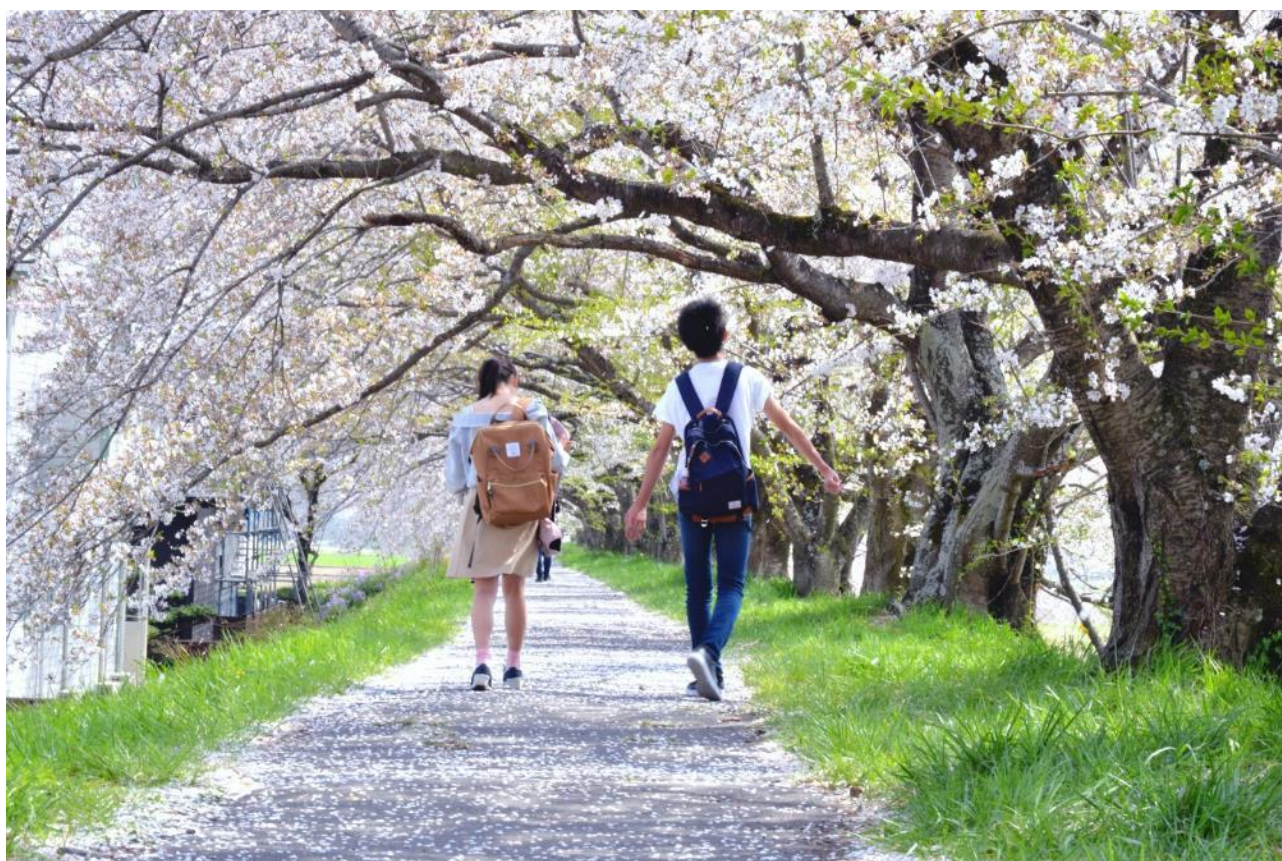
○大平地域未来ビジョン

○藤岡地域未来ビジョン

○都賀地域未来ビジョン

○西方地域未来ビジョン

○岩舟地域未来ビジョン



栃木中央地域未来ビジョン

I. 地域の概要

栃木中央地域は栃木市の中心部に位置し、中心部を流れる巴波川により、江戸から明治期にかけて商業地として発展した歴史を持つ。その街並みには江戸の名残が感じられ「小江戸」と呼ばれている。

人 口：38,594 人（令和 4 年 12 月末現在）

世 帯 数：17,717 世帯（令和 4 年 12 月末現在）

交 通：東武栃木駅、JR 栃木駅、県道 11 号（蔵の街大通り）、県道 309 号（栃木バイパス）

観光資源：蔵の街並、江戸型人形山車、日光例幣使街道、太平山、巴波川、永野川

II. 地域の魅力・課題

蔵の街並みは、栃木市の象徴。市内には、往時の繁栄ぶりを偲ばせる歴史的な建造物が残されている。嘉右衛門町は、栃木県内唯一の国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、近年は若者の出店が目立ち、街歩きスポットにもなっている。他にも、数多くの歴史的に価値ある資源が残っており、歴史や文化に触れることができる。

太平山は市を代表する景勝地。春は桜、夏はアジサイ、秋は紅葉と四季折々の景色を楽しめる。

また、市民活動が活発な地域で、多くの市民がまちづくりに積極的に取り組んでいる。

【地域の課題】

- ・市役所周辺の中心市街地の人が減少し、空き地、空き家が増加している。
- ・歴史的に価値ある資源（栃木城址、河岸、高札場等）が認知されていない。
- ・地域の魅力の PR が不足している。
- ・駅前に蔵の街を感じられるものがなく、寂しい。
- ・既存の観光施設や看板の老朽化。
- ・子供が遊べる場所が少ない（遊具が老朽化している）。
- ・二度の水害を経験していることによる、自然災害への不安。
- ・道路が狭いため、市民（特に学生）や観光客にとって、交通安全に不安が多い。
- ・災害弱者をどうやって助けるのか。
- ・まちづくりプレイヤー（自治会長、市民活動等）の世代交代ができていない。
- ・中心地の蔵の街大通り周辺ににぎわい（人が集える場所）がほしい。



Ⅲ. 未来の姿

うずま川が歴史をつなぐ 粋いき蔵の街

【栃木中央地域のまちづくりのテーマ】

① これからも「江戸」の歴史と文化が息づく栃木中央地域

「小江戸」として有名な栃木中央地域の歴史と文化を、未来に継承していくために、常日頃から歴史や文化に触れることができる環境を作るとともに、歴史と文化を活用し地域経済の活性化と街中のにぎわいにつなげる

② だれもが安心・安全に生活できる栃木中央地域

近年増加している水害をはじめとする自然災害や、交通事故、犯罪等の被害を抑えると共に、有事の際に災害弱者を救うために、ソフト、ハード両面から対策を行い、だれもが安心して生活できる環境を作る

③ 市民が自ら地域課題を解決できる栃木中央地域

行政のみでは解決が困難な地域課題を解決するため、栃木中央地域で培われた市民活動の文化と市民協働の環境をより一層活性化させる。また、その活動を継続するためにまちづくりプレイヤーの世代交代を促す

Ⅳ. 事業イメージ

テーマ	事業イメージ
①	<ul style="list-style-type: none">・地域の歴史・文化を市民（特に若年層）が学ぶ事業・地域の遺構を後世に残すために、保存活用する事業・蔵の街大通り周辺のにぎわいを創出する事業・観光客や観光消費額の増加により、地域経済が観光で活性化する事業
②	<ul style="list-style-type: none">・自然災害から命や財産を守るための防災研修事業・交通事故や犯罪を未然に防ぐための見守り事業
③	<ul style="list-style-type: none">・多くの市民が市民活動に参加できるように、市民活動の第一歩を踏み出すきっかけを作る事業・市民活動団体間での情報共有や交流など、地域課題の解決するための様々な支援となる事業

栃木東部地域未来ビジョン

I. 地域の概要

栃木東部地域は栃木市の東部に位置し、下野市や小山市、壬生町と接している。大宮地区は都市計画道路などの道路が整備され、発展が著しい。国府地区は国指定文化財の下野国庁跡や吾妻古墳などを多数有しており、歴史や文化が息づくまちである。

人 口：20,847 人（令和4年12月末現在）

世 帯 数：8,974 世帯（令和4年12月末現在）

交 通：東武新栃木駅、野州平川駅、野州大塚駅、（都市計画道路）小山栃木都賀線
（主要地方道）宇都宮栃木線、栃木二宮線、（市道）下都賀西部広域農道

観光資源：下野国庁跡、吾妻古墳、大神神社（室の八嶋）、大宮神社、思川

II. 地域の魅力・課題

奈良・平安時代における律令制度下の役所跡であり、8世紀前半に建てられたとされる下野国庁跡がある。平成8年に開館した下野国庁跡資料館では、発掘調査で見つかった資料を見ることができる。大神神社は古くから下野惣社として知られており、「室の八嶋」は歌枕の地として名高く、松尾芭蕉も奥の細道の旅でこの地を訪れ、境内には句碑が建てられている。新栃木駅から野州大塚駅、下野国庁跡などを巡る歩道は、関東ふれあいの道に設定されており、田園風景を眺めながらヒノキの木立に囲まれた大宮神社や今泉神社など、文化遺産にふれあうことのできるハイキングコースとして、多くの方に楽しまれている。

都市計画道路小山栃木都賀線が全線開通に向けて建設中であり、宅地、商業、工業などの開発が見込まれるなど、今後の更なる発展が期待できる地域である。

【地域の課題】

- ・思川の堤防に一部未整備箇所があることや、土砂の堆積により河床が浅くなっているなど、さらなる水害対策が必要である。
- ・下野国庁跡の再整備が進んでいないなど、市を代表する文化財の活用が不足している。
- ・幹線道路を中心としたまちづくりを進めたいが、市街化調整区域が多く、大規模商工業施設等の開発行為が困難である。
- ・農業が盛んな地域だが、後継者が不足している。グリーンツーリズムの推進や、集落営農組織の育成、担い手への農地集積など、高収益が生まれる農業への転換が必要である。
- ・小学校や駅周辺道路の拡幅や街路樹など、美しく安全・安心に暮らせるまちづくりが望まれている。
- ・地域により人口の増加、減少の差が激しい。単身世帯や核家族、自治会未加入世帯が増加しつつあり、地域の繋がりの希薄化が危惧される。
- ・空き家や空き地が増加しており、地域の空洞化や過疎化、犯罪等に繋がる恐れがある。



Ⅲ. 未来の姿

発展し、安心・安全な定住できるまち 東部地域

【栃木東部地域のまちづくりのテーマ】

① 安心・安全な栃木東部地域

水害を始めとした自然災害や交通事故、犯罪等からの被害を抑えるため、ハード・ソフト両面から対策を行うなど、誰もが安心していきいきと生活できる環境を作る

② だれもが安心・安全に生活できる栃木東部地域

地域により人口の増、減の差が激しい。人口増の地区では自治会未加入が多いなど人と地域の繋がりが希薄になっている。人口減の地域では地区行事が難しくなっている。このような状況を踏まえ、新たなまちづくりを模索する

③ 歴史・文化が息づく栃木東部地域

国指定文化財「下野国庁跡」や、市指定文化財である大宮神社の「獅子舞」や大神神社の「室の八嶋」など、地域には歴史的な資源が多く存在する。それらを未来に継承していくとともに、地域経済の発展に繋げる

Ⅳ. 事業イメージ

テーマ	事業イメージ
①	<ul style="list-style-type: none">・自然災害から命や財産を守るための防災に関する事業・交通事故や犯罪を未然に防ぐための事業・景観の保全や環境美化に関する事業
②	<ul style="list-style-type: none">・多世代の住民同士が人と地域との繋がりを感じられるよう、多くの地域住民がまちづくり活動に参加できる事業
③	<ul style="list-style-type: none">・地域が有する歴史・文化の魅力を市内外に発信できる事業・観光客の増加により、地域経済の活性化に寄与する事業

栃木西部地域未来ビジョン

I. 地域の概要

栃木西部地域は栃木市の北西部に位置し、永野川が南北に縦断する。それぞれのまちづくり実働組織は、皆川地域の皆川城址、吹上地域の宮スケートセンター、寺尾地域の星野遺跡をはじめとする恵まれた地域資源・歴史資源を活用したまちづくりを盛んに展開。また、東北自動車道栃木 IC 周辺は産業団地が造成されており、新たな産業の発展が期待される地域でもある。

人 口：15,589 人（令和 4 年 12 月末現在）

世 帯 数：6,724 世帯（令和 4 年 12 月末現在）

交 通：東北自動車道栃木 IC、国道 293 号、主要地方道栃木粕尾線、主要地方道栃木佐野線、主要地方道栃木栗野線、

観光資源：東宮神社、出流山満願寺、東善光寺、皆川城址、吹上城址、宮スケートセンター、宮の桜、星野遺跡

II. 地域の魅力・課題

豊富な歴史的資源・観光資源が存在する文化の香り高い地域である。山城である皆川城は、栃木市の礎を築いた皆川氏の居城で、その形から「ほらがい城」とも呼ばれており、展望台からは栃木市全体を望むことができる。吹上城は、現在の吹上中学校周辺に皆川氏一族によって、皆川城の支城として築かれ、その近くには北関東三十六不動尊霊場の十五番札所の正仙寺がある。寺尾地区には、日光山輪王寺を開いた勝道上人により開山された出流山満願寺があり、門前には名物「出流そば」店が並び、多くの観光客で賑わう。

また、緑深き山から川が流れ、平地には田畑が広がる地域であり、永野川や宮の桜堤、四季の森星野など 1 年を通してかわるがわる豊かな自然を楽しむことができる。

【地域の課題】

- ・住民主体のまちづくりが盛んな地域であるが、これからも多くの人に自分の地域に関心を持ってもらい、地域へ引き込んでいくことが必要。
- ・少子化によって児童生徒が減少する中で、子どもたちの教育環境と地域の将来に配慮した適正な小中学校の配置を地域の課題として考えていくことが必要。
- ・交通安全への意識が非常に強い地域であるが、交通量の多い狭い道路が児童生徒の通学路となっている。
- ・東北自動車道栃木 IC 周辺の魅力ある立地の活用が期待される反面、それに伴う周辺環境への配慮が必要。
- ・耕作放棄地や後継者不足等、農林業の抱える問題。
- ・台風による深刻な被害を受けた経験を持つ地域。
- ・空き家の増加により、景観や衛生、防犯上の問題が生じている。
- ・新型コロナウイルス感染症や物価上昇により、生活困窮者が増加。



Ⅲ. 未来の姿

やっぱりこのまち 元気！活き！粋！西部地域

【栃木西部地域のまちづくりのテーマ】

① 誰もが地元を愛し、まちづくりに参加できる栃木西部地域

歴史が深く、豊富な地域資源に恵まれるとともに、地域住民によるまちづくりが盛んな地域である。地域の老若男女が地元へ愛着を持ち、地域活動に参加し盛り上げていくことで、地域コミュニティの一層の成長を促す環境を作る。あわせて、子ども達の教育環境のあり方を地域として考えることにつなげる

② さまざまな人々が生きがいをもって働く栃木西部地域

産業団地の整備により新たな産業と雇用の創出が期待されることから、多様な人々が地域内で活躍することになる。伝統的な産業に従事する人から新しい産業に従事する人まで、互いを理解し、様々な分野で生きがいをもって働くことのできる地域づくりをおこなう。

③ 危機への備えを万全に。安全で安心に暮らせる栃木西部地域

台風による自然災害を受けたことのある地域であることから、日頃よりソフト・ハードの両面から災害への備えをおこなう。特に永野川・赤津川を有する地域であることから、治水対策を積極的に推進するとともに、危機災害情報を収集することに対する地域住民の意識を高める。

Ⅳ. 事業イメージ

テーマ	事業イメージ
①	<ul style="list-style-type: none">・ 地元の歴史や自然、伝統文化に誇りを持ち、良さを発信するとともに、地域コミュニティの成長を促す事業・ 子どもや子育て世代に向けた育児・教育環境の整備と地域との連携・協働を支援する事業
②	<ul style="list-style-type: none">・ 多世代、多国籍、様々な職業の人々が互いに理解し合い、共生を促す事業・ 新しい産業が発展することによる周辺への影響に対する対策事業
③	<ul style="list-style-type: none">・ 積極的な治水対策を中心とした災害対策と日頃から地域住民の防災意識向上を目的とした事業・ 地域内の危険箇所を地域で共有し未然に対策をする意識付けを目的とした交通安全・防犯の啓発事業

大平地域未来ビジョン

I. 地域の概要

大平地域は、JR両毛線と東武鉄道日光線や地域内中心部を東西・南北に走る道路網により生活利便性に優れ、稲作を中心とした圃場整備の進んだ田園地帯、家電メーカー、自動車メーカーをはじめとする工業基盤、昔ながらの商店に加え、県道沿線を中心に発展した商業地域など、バランスの取れた産業があり、児童館、保育園などの充実した子育て施設、ゆうゆうプラザ、ふるさとふれあい館などの福祉施設、公民館、図書館、大平運動公園などの地域住民の文化・スポーツ施設など、充実した地域資源と、地域福祉にあふれた魅力的な地域。

人 口：29,260人（令和4年12月末現在）

世 帯 数：12,282世帯（令和4年12月末現在）

交 通：東武新大平下駅、JR大平下駅、国道50号、県道11号（栃木藤岡線）、
県道36号（岩舟小山線）、県道153号（南小林栃木線）県道252号（蛭沼川連線）

観光資源：ぶどう団地、かかしの里、大平歴史民俗資料館、白石家戸長屋敷、清水寺、
大中寺、晃石神社、桜峠、東山道、トレッキング、関東ふれあいの道、
日光例幣使街道、フォレストアドベンチャー、パラグライダー

II. 地域の魅力・課題

縄文時代からの遺構や東山道、日光例幣使街道を中心に歴史と伝統文化が数多く残るほか、太平山南山麓を始めとする豊かな自然に恵まれた地域。ハイキングコースは四季を通じて楽しみ、大中寺や太平山神社へ向かう自然歩道では心のリフレッシュができる。太平山南山麓の裾野に広がる北関東最大級のぶどう団地では、夏から秋の最盛期にはぶどう狩りを楽しむ家族連れで賑わう。

【地域の課題】

- ・地域住民の多様化に伴う防災、防犯、交通事故等の不安。
- ・道路案内標識等の多言語への対応と景観劣化の改善。
- ・公園施設・設備の経年劣化とトイレ環境の整備や犬の飼い主のマナーの向上。
- ・旧所名跡や地域住民の多国籍化の学校教育への活用。
- ・史跡などの案内看板や公民館のトイレなど生涯学習環境の改善。
- ・スポーツを通して多世代の地域住民が気軽につながる機会の創設。
- ・子ども達や地域住民が地域の歴史と伝統文化に触れることの魅力の発信。
- ・子どもや子育て世代の教育環境の整備。
- ・未婚率の増加。
- ・高齢者とその家族の安全安心サポート。
- ・健康寿命伸長の取り組み。
- ・子ども達をはじめ、多様な人が地域で就職できる仕組みづくり
- ・かかしの里や富田宿などの観光拠点の整備と大平地域の魅力の発信。
- ・多世代、多国籍な住民が交流できる市民活動の施設の整備やイベントの実施。



Ⅲ. 未来の姿

つどい・つながり・こころ通う おおひら地域

【大平地域のまちづくりのテーマ】

① 誰もが安全で安心して暮らせる大平地域

防災、防犯、交通安全のほか、公園や道路などの生活基盤の安全安心な環境整備まで、多世代と多国籍な住民との共生を意識しつつ、誰もが安全で安心して暮らせる地域を作る。

② 歴史と文化を生かした学びとスポーツを楽しめる大平地域

学校教育から生涯学習、子どもや子育て世代から高齢者まで、多国籍の住民との交流も生かして、地域の歴史と伝統文化とスポーツを中心に、みんなが楽しく学べる地域を作る。

③ 多世代が活躍する活気と魅力あふれる大平地域

ライフステージに合わせた、健康的で生きがいのもてる生活や、多様な産業と観光拠点を生かした持続可能な地域社会の実現に向けて、市と市民が協働し、多世代が活躍できる活気と魅力あふれる地域を作る。

Ⅳ. 事業イメージ

テーマ	事業イメージ
①	<ul style="list-style-type: none">誰もが理解しやすく安心して暮らせる防災・防犯・交通安全対策の環境改善や意識啓発のための事業誰もが安心して快適に生活できる道路環境、公園緑地、衛生環境の改善や意識啓発のための事業
②	<ul style="list-style-type: none">学校教育における地域の歴史と伝統文化・多文化共生の意識を高めるための事業地域の歴史と伝統文化を学ぶ生涯学習や生涯スポーツの機会の活性化するための事業子どもと子育て世代の学びを支援するための事業
③	<ul style="list-style-type: none">地域で暮らすためのライフプラン、高齢者とその家族が安心して暮らせる生活、地域の魅力を生かした健康づくり等を支援するための事業多世代の地域での活躍、活力ある産業や観光拠点づくり、地域の様々な魅力の発掘と情報発信等をしていくための事業多世代の地域交流と市民活動、多文化共生の仕組みづくり等を活性化するための事業

藤岡地域未来ビジョン

I. 地域の概要

藤岡地域は、栃木市の最南端に位置し、首都圏から容易にアクセスできる交通環境とラムサール条約登録湿地である渡良瀬遊水地や三轟山などの特徴的で豊かな自然環境を有している。近年、渡良瀬遊水地周辺エリアにおいて湿地環境の保全意識が高まってきているとともに、その広大なエリアを活かしたアクティビティが盛んになってきている。

人 口：14,699人（令和4年12月末現在）

世 帯 数：5,978世帯（令和4年12月末現在）

交 通：東武藤岡駅、国道50号、県道11号（栃木藤岡線）、佐野藤岡IC

観光資源：渡良瀬遊水地、道の駅みかも、三県境、みかも山公園

II. 地域の魅力・課題

藤岡地域の多くを占める渡良瀬遊水地は、旧谷中村民や周辺地域の大きな負担のもと洪水調節のための治水施設として整備され、長い年月を経て広大なヨシ原が広がる湿地となった。ヨシ焼きや外来植物除去活動など地域の取り組み等により多様性のある湿地環境が保たれ、希少な動植物が多種生息し、豊かな生態系が形成されている。また、広大な敷地を活かし多種多様なスポーツ・レジャーが盛んであるほか、「恋人の聖地」に認定された谷中湖とハートランド城を活かしたまちづくりが期待されている。

【地域の課題】

- ・ 渡良瀬遊水地周辺のアクティビティなどの新たな観光需要への対応が十分でない。
- ・ 農地の担い手不足等から不耕作地が増加している。
- ・ 市街地において商店が閉店し空き店舗が多く活気が少なくなっている。
- ・ 定住者の減少と少子高齢化の進展により空き家が増加している。
- ・ 近所付き合いが減り、世代間交流が少なくなっている。
- ・ 地域の人が集まれる利用しやすい施設等が少なくなっている。
- ・ 車に乗れない人にとって、交通の便が悪く、生活が不便である。
- ・ 足尾鉍毒事件について学べる場所が少なく資料の整理や施設の整備、人数が十分でない。



Ⅲ. 未来の姿

空と水と大地 ^{ハート} 心をつなぐまち・ふじおか

【藤岡地域のまちづくりのテーマ】

- ① 渡良瀬遊水地の魅力と価値を正しく伝え、年間を通して人々が訪れる藤岡地域

希少な動植物が数多く生息し、広大なエリアを活かしたアクティビティが盛んな渡良瀬遊水地の自然・歴史・暮らしと文化・スポーツ等利用の多面的価値を来訪者に伝え、渡良瀬遊水地が利用しやすい環境をつくり、地域経済の活性化につなげる

- ② 安心・安全な生活を確保し、協力し合える藤岡地域

水害をはじめとする自然災害への防災意識を高め、高齢者など要支援者を支える仕組みを構築する。また、防犯意識も高めることで、誰もが安心して暮らせるようにする

- ③ 様々な世代が交流し、余暇を楽しみ健康的に過ごせる藤岡地域

今ある公園や市有施設、空き店舗等を活用し、様々な世代の人がお互いを尊重し交流できる場となるよう環境を整備する。また、市民が渡良瀬遊水地や三轟山などの豊かな自然を楽しみ、健康的で活気のある生活を過ごせる環境をつくる

Ⅳ. 事業イメージ

テーマ	事業イメージ
①	・ ICT技術を利用した渡良瀬遊水地体験事業 ・ 遊水地特産の材料等を使った商品開発支援事業
②	・ 地域の防災・防犯についてみんなで考える交流型研修事業 ・ 子どもを犯罪から守る地域の拠点整備事業
③	・ 自然と空き家を活用した体験型宿泊事業 ・ 多世代が立ち寄り交流できる“ひろば”づくり事業 ・ 藤岡地域の名産品と多種多様なアクティビティを融合した事業

都賀地域未来ビジョン

I. 地域の概要

都賀地域は栃木市の中心部と北部の間に位置し、農地の区画整理により農業振興が盛んに営まれてきた。また、東北自動車道と北関東自動車道が交差し、広域交通の要衝として利便性が高まり、地域の文化は古くから郷土芸能の継承や育成が図られ、恵まれた自然環境の中、つがの里の花まつりをはじめ各種イベントが盛んに開催され、地域コミュニティ活動など活発に行われている。

人 口：12,583 人（令和 4 年 12 月末現在）

世 帯 数：4,961 世帯（令和 4 年 12 月末現在）

交 通：東武合戦場駅、東武家中駅、国道 293 号、都賀 I C、都賀西方スマート I C

観光資源：つがの里、大柿かたくりの里、つがスポーツ公園

II. 地域の魅力・課題

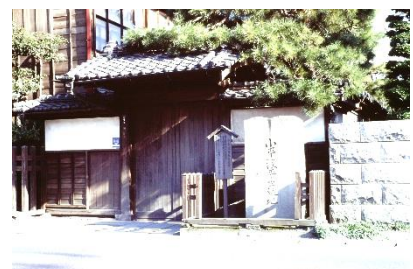
つがの里（ファミリーパーク、ふるさとセンターパーク、都賀聖地公園の愛称）は平成 5 年にオープンした。園内は、約千本の桜・ハスや四季折々の草花で彩られ花彩祭・ハス祭りを開催している。なかでも樹齢 180 年の山桜（愛称：つがの里桜）は、つがの里のシンボルとして訪れた市民を魅了している。

日光を開山した「勝道上人」は幼少期を木地内で過ごし、後に華厳寺を建立し、その跡地がつがの里に残されている。また、日立製作所の創業者である「小平浪平」は、合戦場に生まれ、生家は現在も合戦場地内に残されている。

都賀地域は豊かな自然に恵まれ、歴史的偉人ゆかりの地として、「自然・歴史・文化」の息づく魅力ある地域である。

【地域の課題】

- ・活動の原動力になる若者が少なく、集う場所やイベントもない。
- ・子どもや大人たちが都賀地域や郷土を知る機会が少ない。
- ・地域の行事の継続や伝統芸能の継承問題。
- ・自然豊かなつがの里の有効活用、魅力あふれる公園に。
- ・駅や公共施設のバリアフリー問題や通院・買い物等の交通便が悪い。
- ・自然災害に対する対策強化。
- ・子どもを安心安全に育てられるか。
- ・空き家問題や耕作放棄地の増加。



Ⅲ. 未来の姿

ずっと住みたい魅力あるまち

【都賀地域のまちづくりのテーマ】

① お年寄りや子供が楽しく安心・安全に過ごせる都賀地域

お年寄りや子どもたちの為に市民が助け合い、みんなが生き生きと笑顔で過ごすことができ、未来を担う子どもたちが安心・安全に育つような環境を作る

② 自然と共存する都賀地域

都賀地域の観光拠点となる『つがの里』の自然を守りながら市民の憩いの場として活性化させ、子どもから高齢者までみんなが触れ合い幅広く楽しめる環境を作り、また、地域拠点施設としてカーボンニュートラル化に配慮した都賀総合支所複合施設を中心に、自然環境の保全のため地域全体で脱炭素社会を目指す

③ 市民が率先して活動する都賀地域

自然災害への対策、交通安全、犯罪等の抑止、空き家対策、耕作放棄地対策など地域問題を市民協働で解決し住みよい街を目指す。また、伝統行事や地域文化、各種イベント等の地域活動にも市民自ら動き活力ある地域を目指す

Ⅳ. 事業イメージ

テーマ	事業イメージ
①	・子どもたちやお年寄りを見守れるような地域ぐるみで支援できる事業 ・大人たちが情報交換や交流できる場所やイベントを支援する事業
②	・自然環境を保全する事業 ・つがの里に人が集まり活性化する事業 ・省エネ、節電やリサイクルなど身近な脱炭素の取り組みが行えるような働きかけ
③	・地域の問題や課題などを相談・共有できるようなきっかけを支援する事業 ・市民が自らやってみたいと思えるような働きかけ

西方地域未来ビジョン

I. 地域の概要

西方地域は栃木市の北部に位置し、米・イチゴ等農業生産が盛んである。八百比丘尼伝説や小倉川のかっぱ伝説といった伝承が残り、国指定史跡の登録を目指す西方城跡を擁する、文化的、歴史的な資源の豊富な場所でもある。

人 口：5,973 人（令和4年12月末現在）

世 帯 数：2,341 世帯（令和4年12月末現在）

交 通：東武鉄道日光線東武金崎駅、国道293号、県道3号、県道37号、県道131号、
県道177号

観光資源：金崎の桜堤、道の駅にしかた、西方ふれあいパーク、八百比丘尼堂、西方城跡

II. 地域の魅力・課題

安土桃山時代末期から江戸時代初期にかけて思川に造られた小倉堰は、長さ175m、幅11m、高さ1.7mの固定堰となっており、地域の農業用水などに使われている。栃木景勝百選の一つ「金崎の桜堤」があり、有志により桜の維持管理等が行われている。水と緑が体験できる公園の西方ふれあいパークや真名子にある八百比丘尼公園など、四季折々の自然豊かな景色を楽しめる。

【地域の課題】

- ・災害に関しての危機感があまりない。
- ・東武金崎駅周辺に活気がない。
- ・都賀・西方スマートインターチェンジが開通予定であるが、企業誘致のための周辺整備やPRが十分でない。
- ・ふれあいパークには複数の遊具が設置されているが、多くは老朽化が進んでいる。
- ・金崎さくら堤は毎年多くの花見客が集まるが、桜の老木化や、近隣にベンチやトイレがない。
- ・公民館の講座は充実されているが参加者が少ない。
- ・西方城跡調査等が進んでいるが、完了後の保護と活用方法の検討が必要。
- ・八百比丘尼様の認知度を高めるPR等が十分でない。
- ・持続可能な農業実現のための、若い農業従事者が不足している。
- ・道の駅にしかたでの、いちごのPR・販売の取り扱いが十分でない。



Ⅲ. 未来の姿

笑顔と緑あふれる西方地域

【西方地域のまちづくりのテーマ】

① 活力に満ちた安全・安心の西方地域

通学時の見守り活動をはじめとする交通安全対策や、防犯・防災に対する意識づけを市民と行政が共有し、それぞれの立場から安心安全なまちづくりを目指す

② 心豊かに自然と共に発展する西方地域

スマートICの開通により、利便性の増す道の駅周辺を中心に美しい景観の桜堤や、田園地帯ならではの豊かな地域産業を活用し、賑わいのある地域交流の創出につながる環境を作る

③ 歴史と文化を共に築ける西方地域

西方城跡や八百比丘尼尊をはじめとする地域に根付いた歴史的・文化的な資源の保護や来歴を次世代に継承し、持続可能な地域を作るとともに、それらを活用した地域の活性化を図る

Ⅳ. 事業イメージ

テーマ	事業イメージ
①	・ 市民による見守り等、ボランティアの継続につながる事業 ・ ハード・ソフトの両面から、交通事故や犯罪、災害から身を守るための事業
②	・ 美しい景観を保全する事業 ・ 地域の産業や活性化の担い手の育成につながる事業 ・ 地域の資源を活用し、観光と産業の活性化を図る事業
③	・ 有形・無形の地域資源を保存及び活用する事業 ・ 地域の資源や施設を活用した、多世代にわたる学びにつながる事業 ・ 都市との交流により地域の活性化を図る事業

岩舟地域未来ビジョン

I. 地域の概要

岩舟地域は栃木市の南西部にあり、国道 50 号沿線に位置している。みかも山公園や岩船山など自然に恵まれ、国指定重要文化財の村檜神社や県指定の文化財が数多く、慈覚大師円仁ゆかりの地として豊かな歴史も持つ地域である。

人 口：16,517 人（令和 4 年 12 月末現在）

世 帯 数：6,798 世帯（令和 4 年 12 月末現在）

交 通：東北自動車道、北関東自動車道、国道 50 号、JR 岩舟駅、東武静和駅
県道 11 号（栃木藤岡線）、県道 36 号（小山岩舟線）、県道 67 号（桐生岩舟線）
県道 75 号（栃木佐野線）、県道 282 号（中藤岡線）

観光資源：村檜神社、岩船山、栃木県みかも山公園、とちぎ花センター
栃木市いわふねフルーツパークセンター

II. 地域の魅力・課題

災害が少なく、国の重要文化財「村檜神社」をはじめ、慈覚大師円仁の修行の地「大慈寺」や岩船山など、歴史を感じることができる地域である。ぶどう、梨、いちご、米などの特産品があり、みかも山公園やとちぎ花センター、いわふねフルーツパークセンターなど、自然や花、フルーツを満喫できることから、市内外からも多くの観光客が訪れる。また、プロスポーツに触れる機会の創出によりこれまでとは違うスポーツ文化の発展、食とスポーツの融合が期待される。元気な高齢者が多く、スポーツを通じた世代間交流も期待される。

【地域の課題】

- ・若い人の参加、活躍する場がない。
- ・親子で安心して楽しめる公園、施設、交流の場がない。
- ・地域住民の交流が少ない。
- ・人口減少と高齢化世帯が増えている。
- ・災害発生時に情報が受け取れず、自力で避難できない人がいる。
- ・優先的に開く避難所が少ない。
- ・地域住民の防災意識が低い。
- ・防犯灯が少ない。
- ・空き家が増えている。
- ・歴史遺産と特産物のPR及び活性化がうまくできていない。
- ・地域の歴史が認知されておらず、子ども達に伝えられていない。



Ⅲ. 未来の姿

多世代がつながり安心して過ごせる、歴史・文化・産業を活かすまち

【岩舟地域のまちづくりのテーマ】

① 多世代が交流し、活気あふれる岩舟地域

地域住民の交流が希薄になるなか、多世代が交流できる場所や機会作りに取り組む。特に若い世代が参加しやすく子供たちが安心して楽しめるようにする。世代を超えて交流することで、地域住民が生き活きと過ごせる環境を作る

② 高い防災・防犯意識を持った安心・安全な岩舟地域

岩舟地域は災害が少ないという住民の認識から、防災意識が低い。想定外の災害被害を受けないために、常に高い防災意識を持ち、要支援者を支える取り組みを行う。また防犯においても意識を高め、誰もが安心して過ごせるようにする

③ 歴史と文化、産業を継承し、観光を活かす岩舟地域

岩舟地域には歴史遺産や特産物が多くあるが、地域外だけでなく岩舟住民にも十分知られていない。岩舟地域資源の周知及び継承する環境をつくり、地域内外へPRすることで観光の活性化につなげていく

Ⅳ. 事業イメージ

テーマ	事業イメージ
①	<ul style="list-style-type: none">・多世代が集える場の整備と交流が継続できる仕組みを作る事業・若い世代が活躍できる環境と機会を作る事業・子どもが伸び伸びと安心して遊べる場所を整える事業
②	<ul style="list-style-type: none">・防災、防犯について危機意識を啓発する事業・防災、防犯に対応した設備を整備する事業・防災、防犯に関し、地域で支え合うネットワークを構築する事業
③	<ul style="list-style-type: none">・学校や地域で岩舟地域資源について学び、郷土愛を育ぶ事業・岩舟地域資源の観光化を進める事業・岩舟地域資源をPRする拠点の整備とイベント事業



III まとめ

1. これからの地域まちづくり

- 地域の未来の姿を実現するための地域会議、認定まちづくり実働組織、市の役割
- 地域の枠を超えた連携

2. 参考資料

- 栃木市総合計画(第2期)アンケート結果
- 子育て世代まちづくり意見交換会アンケート結果
- 多世代まちづくり意見交換会アンケート結果
- 「まちづくり」意見交換会の報告



「まちづくり」意見交換会の様子

1. これからの地域まちづくり

○地域の未来の姿を実現するための地域会議、認定まちづくり実働組織、市の役割

地域未来ビジョンを策定することにより、各地域の魅力や、抱えている課題が共有できたことにより、10年先の目指すべき姿が明確になりました。

これにより、今後、地域住民（地域会議や実働組織等）と市が地域のまちづくりに対して共通認識をもち同じ方向に向かって、事業を行うことができるようになります。

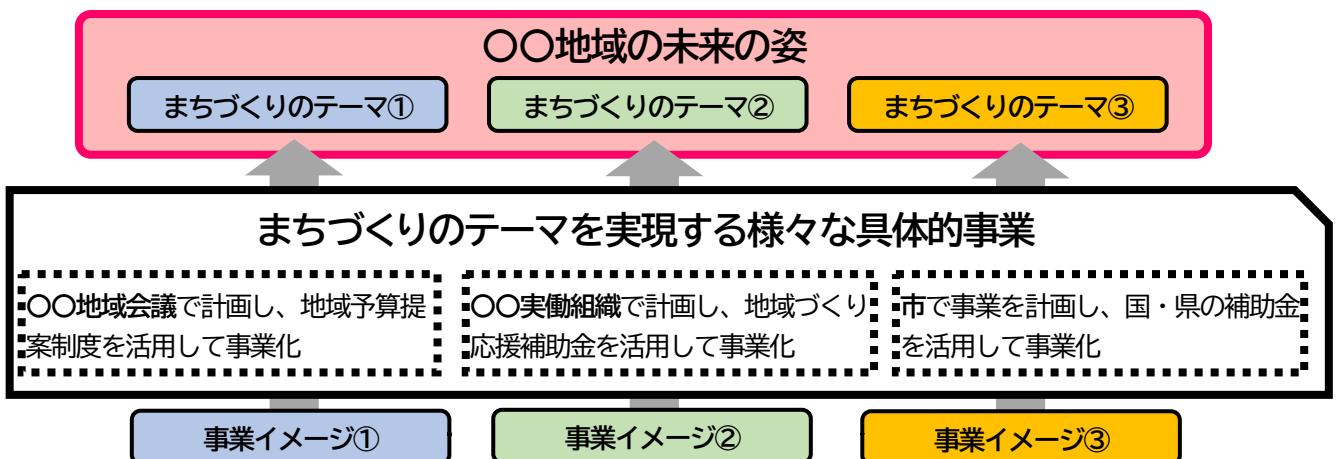
地域会議においては、地域未来ビジョンを参考にすることで、これまで議論されてきた地域の魅力や地域課題に触れることができ、2年間の任期満了に伴う、構成委員の入れ替えがある場合にも、地域として一貫性のあるまちづくりを行うことができます。また、10年先の目指すべき姿を実現するために、地域予算提案事業制度を活用し、市に対して事業の提案をすることができます。

認定まちづくり実働組織においては、地域未来ビジョンを通して、地域として目指している未来の姿を地域会議や市と共有することができ、地域のニーズにあった活動を実施することができます。また、地域未来ビジョンを参考にした事業を、地域づくり応援補助金を活用して実施することができます。

市においては、各地域における事業を計画する際に、地域未来ビジョンを参考にすることで、地域住民の思いを尊重したまちづくりを実施することができます。また、国や県の補助金を活用することで、目指すべき姿の実現に寄与することができる新規事業を企画することも可能となります。地域の課題解決のみならず、特に、脱炭素化、SDGs、DX等の時代の潮流を意識した課題にも、積極的に取り組む必要があると考えます。

地域住民が、まちづくりの指針として、地域未来ビジョンを活用することで、10年先の明るい未来を実現することができます。

《地域の未来の姿を実現するまでのスキーム図》



○地域の枠を超えた連携

地域未来ビジョンにより、各地域における今後のまちづくりの方針は定まったものの、一つの地域では解決することができない地域課題もあります。

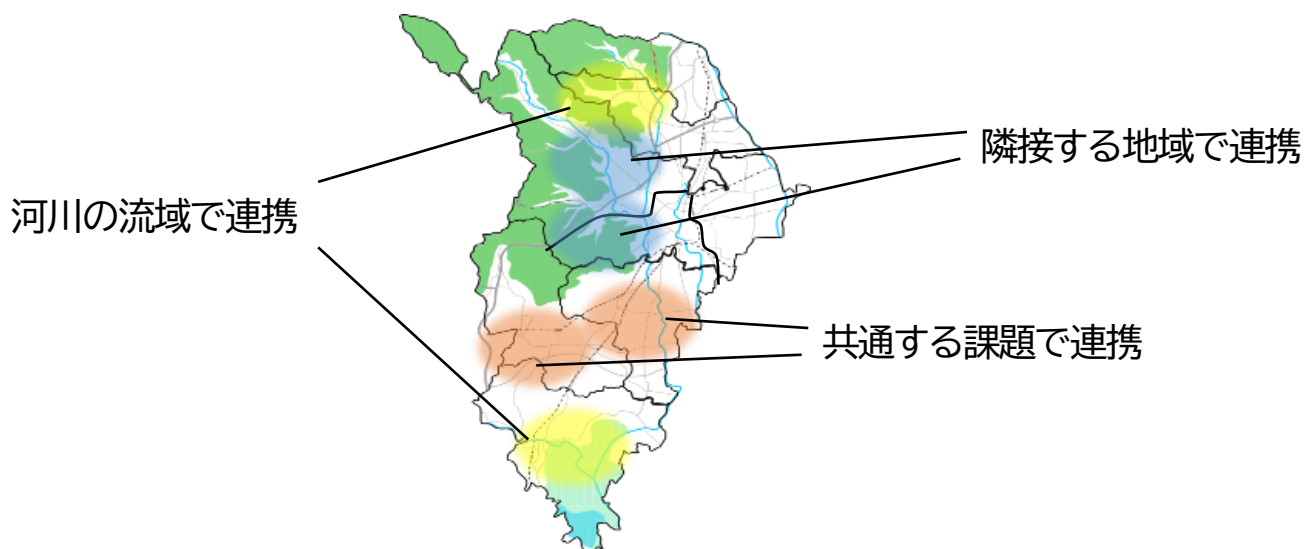
例えば、日光例幣使街道や太平山は複数の地域に跨る観光資源でありますので、隣接する地域で連携して地域課題の解決に取り組むことで、相乗効果が発揮されることが期待されます。また、水害においては、流域全体で課題を共有し治水対策を行うことで、被害が軽減されるため、各地域との連携が必要となります。

地域未来ビジョンを検討するにあたり、参加対象者を北部エリア、中央エリア、南部エリアの3つに分け、地域住民と市職員による「まちづくり」意見交換会※を実施しました。参加した地域住民の方々は地域に関係なく、地域がどんなまちになると良いか、魅力的なまちにするために必要な取り組みは何かなど、積極的に意見交換を行っていました。合併から10年が経過し、栃木市としての一体感も醸成されてきており、地域の枠を超えて、連携する環境も整ってきています。

各地域未来ビジョンは特定の地域のまちづくりの指針ではありますが、他の地域の地域未来ビジョンを参考にすることで、新たな連携や課題の解決方法を発見することも可能となります。合併以前は、市町の枠を超えなければ解決できなかった課題についても、合併によるスケールメリットを活かした解決が可能となることから、今後の栃木市のまちづくりにおいて、他の地域との連携や協働も、重要であると考えます。

※ 意見交換会の報告は「Ⅲまとめ 2. 参考資料」として掲載

《地域連携のイメージ》

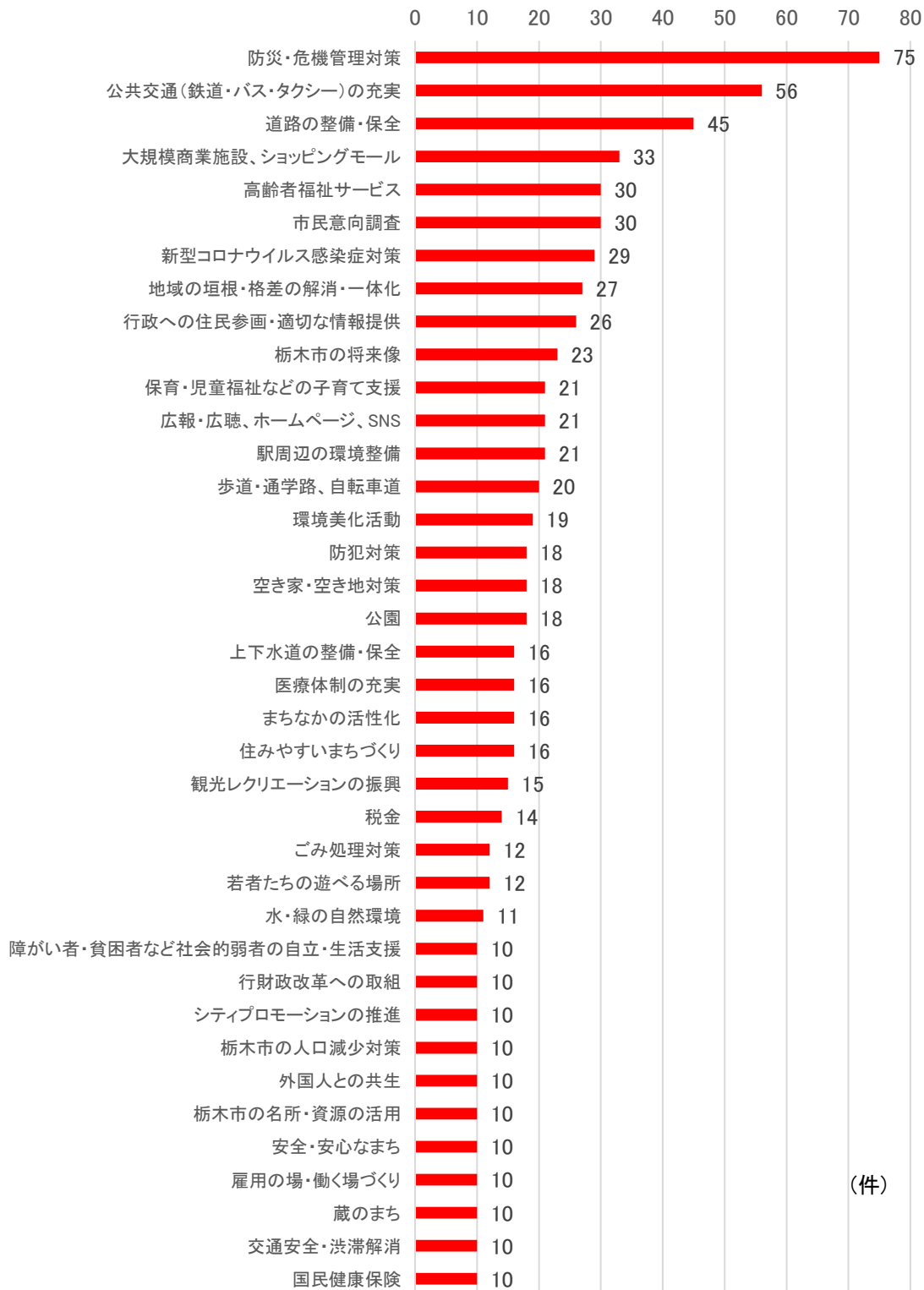


2. 参考資料



○栃木市総合計画(第2期)アンケート結果

これからの栃木市のまちづくりに関するご意見・ご要望等

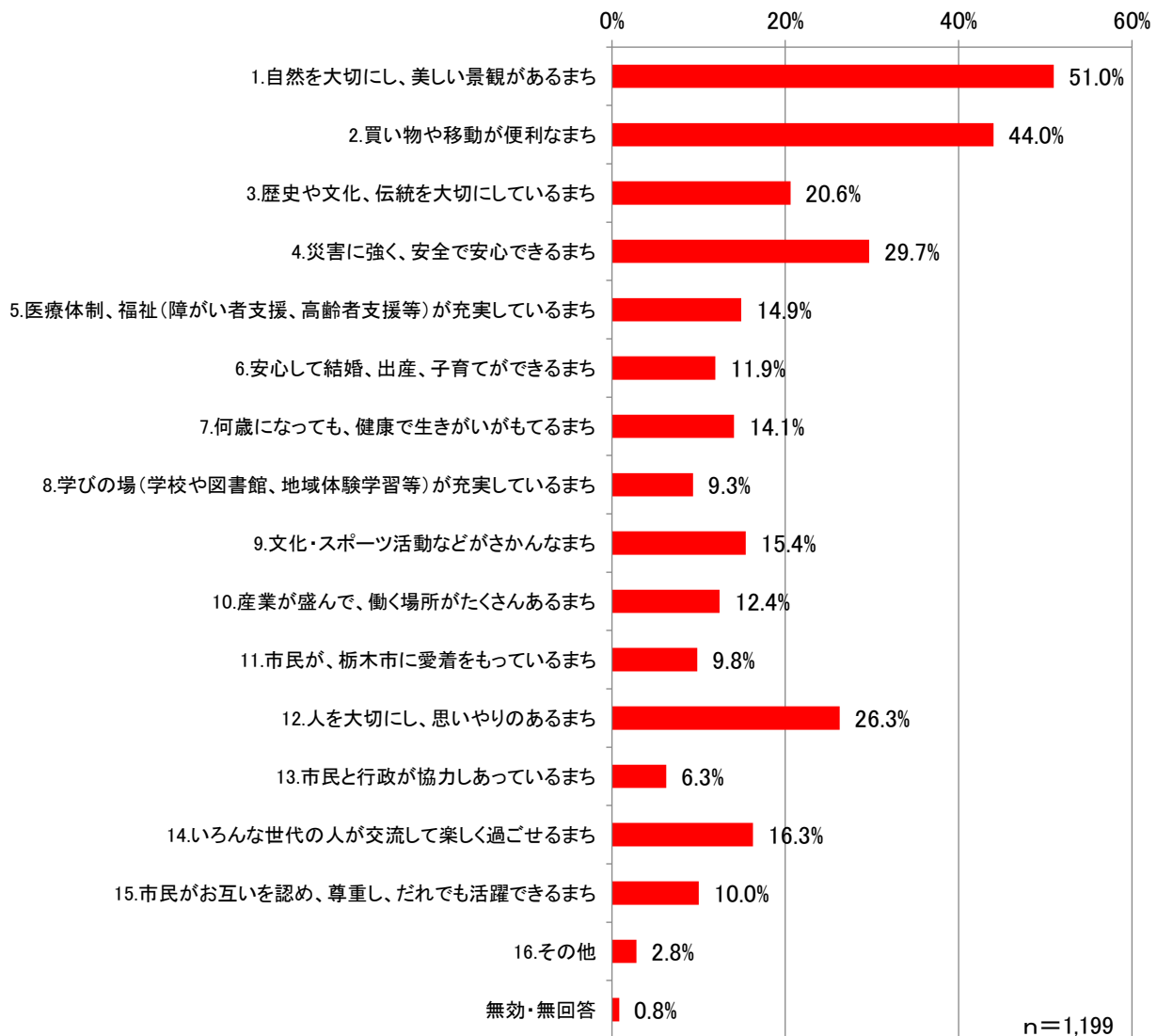


(件)

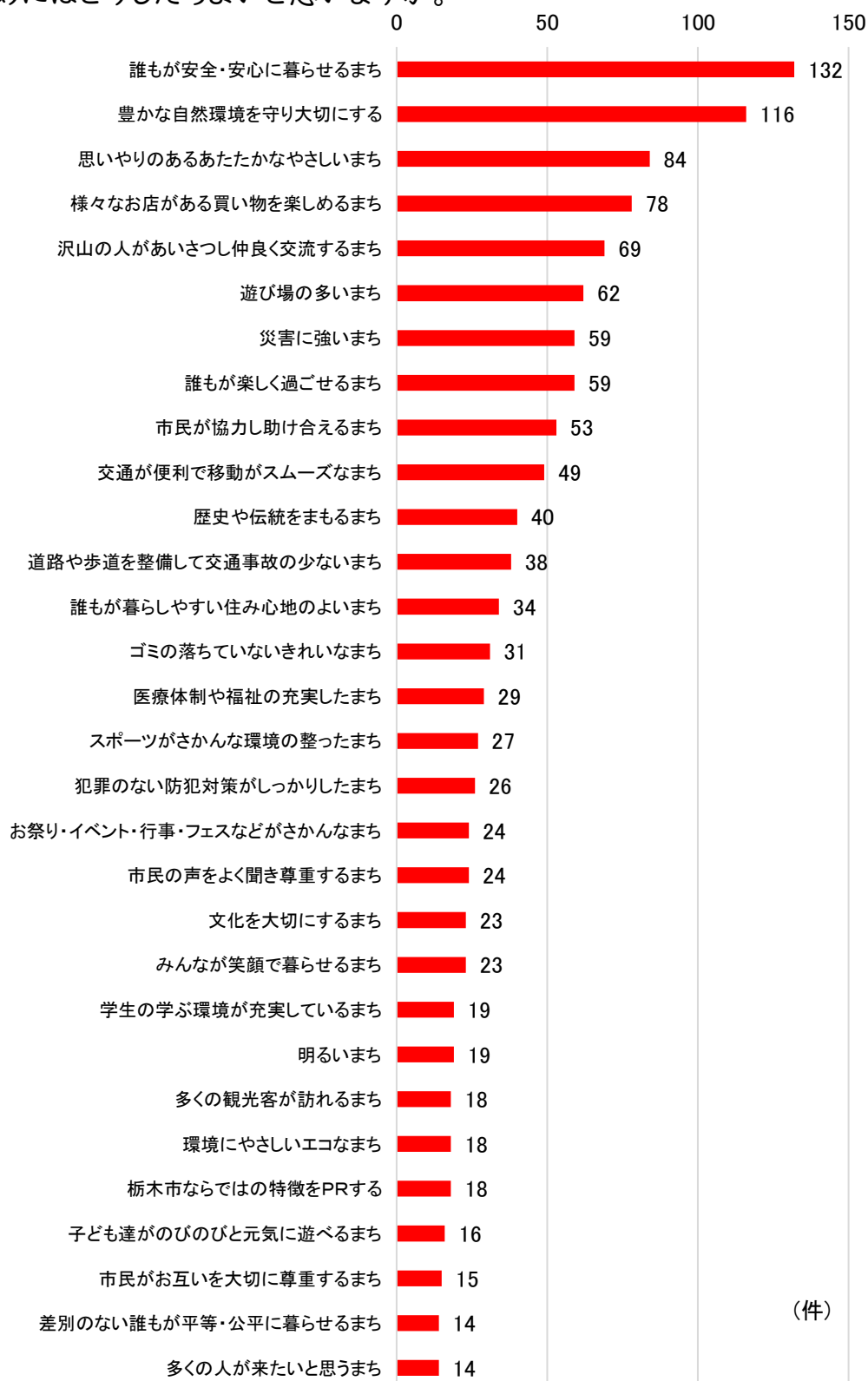
(中学生意向調査)

10年後の栃木市をイメージしたとき、どのようなまちだったら良いと思いますか。
3つ選んでください。

図表 10年後の栃木市に期待するまちの「イメージ」



あなたが「栃木市の市長」だったらどのようなまちにしたいか、それを実現するためにはどうしたらよいと思いますか。



○子育て世代まちづくり意見交換会アンケート結果

令和4年度 子育て世代ふれあいトーク アンケート集計(抜粋)

お住まいの地域がどんなまちになったら良いか

【栃木中央】

自由意見

- 近所の方と連携して、地域が盛り上がりげれば
- 子供の見守りについて、下校時に声をかけると不審者扱いを受けるので、顔見知りにしたリオープンな地域に
- 防災・安全なまち

【栃木東部】

- 子供たちの笑顔あふれる街
- 安心・安全のまち
- 農業の活性化、教育充実
- 積極財政を行い、支出を最大化して、みんなが豊かな住みやすい地域
- PTA・育成会のあり方についてのアンケートの実施
- どの世代も、人との繋がりを感じられる地域になってほしい
- 生まれてから死ぬまで、ずっと住み続けられるまち
- 子供が育てやすく、交通やその利便性を高めてほしい

【栃木西部】

- 災害に強いまち
- 地域が一体となり支え合う思いやりに富んだまち
- 明るく元気なまち
- 豊かな自然環境を守り大切にする

【大平】

- 子供たちが笑顔で元気に過ごせる地域でありますように
- 主体的に考えて行動できる大人が活気ある活動をしている地域
- 外国人が多いなら、そのような人々から文化を取り入れてマーケットを開催するとか
- 栃木市の歴史や伝統などを子どもたちに伝え、育ったまちを誇りに、大好きになってほしい
- 誰もが住みやすい地域、繋がっている地域

【藤岡】

- 人々が多くなる地域
- 子供たちが住み続けたいと思えるような愛着、プライドを持てるまち

【西方】

- 自然豊かで思いやりのあるまち
- みんなが明るく安心して暮らせるまち
- 子供の数が減っていますが、最低でも現状維持ができる地域にしていきたい

【岩舟】

- 明るく、楽しく、絆を大切にするまち
- 岩舟町はとても環境がよく住みやすいまちです。子育て以外でも介護の相談もすぐに乗っていただきました
- このまま、地域の人と役場の人と協力しながら、良いまちになってほしい

○多世代まちづくり意見交換会アンケート結果

令和4年度 多世代まちづくり意見交換会 アンケート集計(抜粋)

お住まいの地域がどんなまちになったら良いか

【栃木中央】

自由意見

- 沢山の意見が出る、同じ興味を持つ人が多い町になったら良いと思う
- まちづくりの意識改革(住民自治)、意識改革は、行政にしてもらうものではない
- 倭町、入舟町地区です。未来を予想するのは難しい、安全で財力のある地域になってほしい
- 自治会の活性化、お互い助け合える自治会(共助)
- 世代問わず、まちづくりや地域に係わるチャレンジが出来るまちになってほしい

【栃木西部】

- 私の住んでいる自治会は、以前からの住人と移り住んできた新世帯と混在している自治会です。これからは、いかにしてコミュニケーションを取って一体感を醸成するかが活性化の取り組みになると感じている
- 誰もが不安なく住むことができる地域
- 子どもが安心して生活できる地域

【栃木東部】

- 調整区域の多い国府地区は、子どもが農業をやめてしまうので、老人だけになってしまう。農業は、JA グリーンファーム等がやっている現状で、若い人が調整区域から出ていかない施策はないのか？
- 住んでみたくなる地域
- 地域のボランティアの方が、小学生の帰り道の見守りをしているのをよく見かけます。地域のボランティアの方がもっと多くほかの事にも参加していけると良いなと思います
- 子どもが安心・安全に過ごせるまち

【藤岡】

- 多世代で協力し合える地域
- 安心・安全な地域

【岩舟】

- 子供が育てやすい、楽しいまちになってほしい

○「まちづくり」意見交換会の報告

各エリア「まちづくり」意見交換会のグループワークで伺った地域で「私が」つくりたい「もの」や「こと」(一部抜粋)

中央エリア「まちづくり」意見交換会 令和4年9月13日(火)

身近な災害時の
避難所

地域の歴史に触れ
る機会づくり

防災ウォークラリー
の開催

水害対策の地域の
連携システム

WEB版の防犯・
交通安全マップ

農業体験イベント

人と人とのつながり

老若男女が集まる
場所

など

南部エリア「まちづくり」意見交換会 令和4年9月21日(水)

空き家を活用した
古民家カフェ

多世代が集まれる
場所や機会

地域の高齢者の
見守り活動

ワイナリーや
クラフトビール

子どもや地域の
人々のLIVE

渡良瀬遊水地で
花火大会

サイクリングでの
地元特産品巡り

自然エネルギー村

など

北部エリア「まちづくり」意見交換会 令和4年9月26日(月)

キャンプ場や
ドッグラン

ウォーキングやサイ
クリングコース設定

農業体験や
米作り体験

まちカフェ
(古民家)

地域の魅力発見
プロジェクト

親子の学校
(カフェ)

地域再発見のため
の冊子作成

自然を活用した
アクティビティ

など